

北近江の戦国史 2



朽木マグダレナ墓所
(興聖寺境内)



虎御前山城跡遠景



長比城跡遠景



北近江の戦国史2 関連地図

発行：令和7年9月13日

編集：滋賀県文化スポーツ部文化財保護課

安土城・城郭調査係

〒520-8577

滋賀県大津市京町四丁目1番1号

TEL 077-528-4678 FAX 077-528-4956

Mail castle@pref.shiga.lg.jp

コース 1 朽木（高島市）

朽木は安曇川が削り込んだ険しい谷に沿った山村で日本海と京都を結ぶ重要なルート上にあり、中世の頃から多くの物資と情報が行き交い賑わっていました。朝倉攻めの際に浅井長政の裏切りに遭った織田信長は、当時、朽木谷を支配していた朽木宣綱の先導で若狭からこの朽木谷を通して京へ逃げ帰ったとされています。

市場集落には、このとき信長をもてなしたと伝えられる圓満堂（跡地）があります。また、安曇川と北川の合流点近くには、朽木氏が本拠とした朽木陣屋跡があり、井戸跡や堀の一部を見ることができます。

このほかにも、安曇川の河岸段丘沿いには、将軍足利義晴が京の兵乱を避けるため身を寄せたとされる岩神館跡があり、寺院墓地の背後に土塁と堀に囲まれた区画を見ることができます。



西山城跡（遠景）



朽木陣屋跡（堀跡）



西山城跡登城口



朽木陣屋跡（井戸跡）



圓満堂跡地



旧商家・熊瀬家住宅



岩神館跡土塁



旧秀隣寺庭園

コース2 長比城跡（米原市）

近江と美濃の国境、標高390mの山頂に築かれた陣城です。元亀元年（1570年）、織田信長が浅井長政との盟約を破り朝倉氏を攻めたため、長政は離反し信長を挟撃、辛くも美濃に帰還した信長は、長政を責めるために近江に侵攻します。信長の近江侵攻に備え、東山道を監視・封鎖するために長政が築城したのがこの長比城です。

城は東西ふたつの曲輪で構成されています。西の曲輪は東西に延びる山頂を囲うように土塁を巡らせ、南と東の2か所に平虎口と枡形虎口を構えています。東の曲輪は、西の曲輪より一回り以上大きく、山頂部に巡らされた土塁の東辺の南北と西隅の3か所に虎口を構えています。東辺の北は喰い違い虎口、南は枡形虎口で、東側（美濃側）を意識した構造となっています。



コース 3 虎御前山城跡(長浜市)

虎御前山城は、浅井長政の居城である小谷城の西方約700mに位置し、元亀3年に織田信長によって築城されました。小谷城をめぐる浅井長政との攻防では当初は横山城に羽柴秀吉を置き、牽制を行っていましたが、朝倉氏が小谷城の詰城である大嶽城に入城したことを受け、虎御前山に本陣を置きました。廃城となった時期は明らかではありませんが、浅井長政が自害し小谷城が落城した後と考えられています。虎御前山に築かれた砦群は築城時期だけでなく、築城目的や築城主体が明らかで、その遺構も良好に残されており、当時の織豊系城郭の在り方を示す貴重なお城です。



●堀秀政陣跡



●丹羽長秀陣跡



●多賀貞能陣跡



●一本松古墳

